

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成29年1月 日

協議会名:長久手市地域公共交通会議

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
中央循環線右回り(名鉄バス)	市役所～市役所	前回の評価結果は、市内公共交通の利用促進に向け、市民参加型の各種協働事業に取組み、各交通モードの利用者が増加傾向にあることが評価され、引き続き、市民との協働事業の推進と、4月に予定しているNーバスの見直しによる更なる利便性向上への期待であった。	A 平成23年4月1日の路線見直し以降運行を続けている。	A 前年度の評価対象期間と比べた補助対象路線の利用者数は、対前年度比を上回っている。 平成27年度:101人/日(H26.10～H27.09) 平成28年度:104人/日(H27.10～H28.09)	利用者数は順調に増加傾向で推移している中で、都市構造の変化と新たな移動ニーズへの対応を図るため、Nーバスの路線見直しを行い、平成28年4月1日からの運行開始し、一時的に対前年同月比で減少したものの、同年8月以降は増加に転じている。
中央循環線左回り(名鉄バス)	市役所～市役所	それに対し、Nーバスの路線見直しを行い、平成28年4月より見直し路線で運行を開始した。市民との協働事業として、公共交通情報紙「のりやあせ」の発行、公共交通応援隊による公共交通利用促進イベント、親子参加の公共交通利用促進ワークショップを実施する。	A 平成23年4月1日の路線見直し以降運行を続けている。	B 前年度の評価対象期間と比べた補助対象路線の利用者数は、対前年度比を下回った。平成28年4月1日からの路線見直しにより、1日あたり12本から11本への減便が原因と考えられる。 平成27年度:110人/日(H26.10～H27.09) 平成28年度:108人/日(H27.10～H28.09)	平成28年12月に長久手古戦場駅前にオープンした大型商業施設を訪れる自動車交通の増加により、公共交通(名鉄バス、Nーバス)の定時性が損なわれる例が生じていることから、道路交通状況と運行状況を注視していく必要がある。
三ヶ峯線早朝便(名鉄バス)	ライスセンター～福祉の家	また、今後予定される大型商業施設や宅地開発による需要動向への対応を検討することの評価を受けた。	A 平成23年4月1日の路線見直し以降運行を続けている。	A 前年度の評価対象期間と比べた補助対象路線の利用者数は、対前年度比を上回っている。 平成27年度:83人/日(H26.10～H27.09) 平成28年度:88人/日(H27.10～H28.09)	また、市民が主体となった「公共交通応援隊」の活動が軌道に乗りにつつあることから、引き続き活動が継続するように、適切な支援を行い、公共交通イベント等を通じて利用促進を図る。
三ヶ峯線平日便・福祉の家発(名鉄バス)	福祉の家～市役所	それに対し、Nーバスの路線見直しでは、長久手古戦場駅前に整備された駅前広場や大型商業施設の立地を考慮したところであり、さらに公園西駅前で行進する大型販売店の立地や土地区画整理事業の進捗を見据えて対応する。	A 平成28年4月1日のNーバスの路線見直しにより、三ヶ峯線早朝便は廃止し、三ヶ峯線福祉の家発便は三ヶ峯線として運行システムを一体にした。	A 前年度の評価対象期間と比べた補助対象路線の利用者数は、対前年度比を上回っている。 平成27年度:83人/日(H26.10～H27.09) 平成28年度:88人/日(H27.10～H28.09)	また、高齢者を中心とした交通弱者の移動支援策の検討も引き続き取り組み、公共交通の利用に繋げる。
三ヶ峯線土休日便・福祉の家発(名鉄バス)	福祉の家～市役所				
三ヶ峯線平日便(名鉄バス)	市役所～市役所				
三ヶ峯線土休日便(名鉄バス)	市役所～市役所				

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

平成29年1月 日

協議会名:長久手市地域公共交通会議

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
【事業内容及び結果概要を記載】	A ・ B ・ C 評価	【事業が適切に実施された(されている)か記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由を記載。】	【事業の今後の改善点として、取組内容・関係者それぞれが果たすべき役割等を記載。】
公共交通情報紙「のりゃあせ」の作成	A	計画どおり適切に事業が実施されている。	市内の公共交通についての情報を市民記者が市民目線で作成して年に2回発行し、自治会回覧や市内の主要な施設に設置するものであり、第6号を平成28年3月、第7号を平成28年11月に発行した。第6号では5名、第7号では3名の市民の協力が得られた。第8号は、3名の市民の協力を得て、平成29年3月に発行する予定である。平成25年度に実施した「公共交通に関する市民アンケート調査」では、「のりゃあせ」の認知度は7%と低かったため、限られた印刷部数の中で、より多くの市民の目に触れるように、市役所を始めとした公共公益施設に配布することと合わせて、自治会回覧を行っている。
公共交通利用促進ワークショップの開催	A	計画どおり適切に事業が実施されている。	市民に対して市内の公共交通の現状や取組みに関する情報提供を行う場として、公共交通に関するシンポジウム及びワークショップを開催し、直接市民に周知、啓発を行う機会を設け、電子媒体や紙媒体だけでは伝えきれないことを直接伝えることによって、認知度の向上を図るものである。開催は平成29年3月を予定し、準備を進めている最中であり、堅苦しくならないように、趣向を凝らして親子で参加できるように検討中である。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成29年1月 日

協議会名:	長久手市地域公共交通会議
評価対象事業名:	陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本市は愛知県名古屋市の東側に位置し、人口約56,000人(平成28年10月1日現在)で増加を続けている。</p> <p>本市は通勤通学流動の面では名古屋市との結びつきが強く、市内の公共交通網は、軌道系のリニモが東西方向の移動軸として、市域を横断し、民間の路線バスが名古屋市内の地下鉄駅、市内の主要施設、周辺の大学など、市西部地区の移動軸として、東西方向の移動に対応した路線網となり、隣接市町の境界をまたいでいる。また、市営のコミュニティバス(Nーバス)が、民間のバス路線を補完する形で市内の移動の足を確保するため、面的にカバーする路線網を形成している。</p> <p>現在、リニモの長久手古戦場駅及び公園西駅周辺地域において土地区画整理事業が進んでおり、大規模な集客施設(長久手古戦場駅では平成28年12月にオープン)や住宅地の立地が計画され、更なる人口増加や交通流動が変わることが見込まれるため、自家用車に過度に依存せず、リニモ、路線バス、Nーバスが一体となった使いやすいネットワークをつくり、「人がニコニコ笑い、イキイキと暮らす姿を将来像とし、市内公共交通をみんなで育み、よりよい公共交通の実現」を目指す。(長久手市地域公共交通網形成計画から抜粋)</p> <p>公共交通ネットワークは移動ニーズに合わせて展開し、市内外への移動拠点となる交通結節点への移動利便性の向上を目指しながら、公共交通とまちづくりとの連携を図り、将来の公共交通ネットワークの形成を進める。</p>

長久手市地域公共交通会議

平成 20 年 11 月 25 日設置

フィーダー系統

平成 28 年 6 月確保維持計画策定

1. 協議会が目指す地域公共交通の姿

（1）地域の特性

本市は名古屋市の東側に位置し、通勤通学の流動量は名古屋市が最大となっている。

人口は増加傾向で推移し、平成 57～62 年頃まで増加の見込みとなっている。

市内の公共交通網は、軌道系のリニモと民間の路線バス（名鉄バス）で市内の東西方向の移動基軸を担い、市営のコミュニティバス（N-バス）で市内を面的にカバーしている。

公共交通の利用者数は、近年は増加傾向にある。

交通課題として、現在、市内では大規模な集客施設や住宅地の立地を予定する面整備が進行し、それらに対応した交通計画が必要となっている。

（2）地域公共交通に関する目標：長久手市地域公共交通網形成計画（平成 28 年 3 月策定）

1) 期間：平成 28 年度～平成 30 年度

2) 将来像：みんながつながり笑顔があふれる公共交通

3) 将来像を踏まえた目指すまちの姿

① みんなで育む公共交通のまち

② 人にやさしい公共交通のまち

③ 環境にやさしい公共交通のまち

4) 基本方針

I 人々の生活を支える交通移動を提供し続ける

II 地域ニーズに配慮しながら、互いに連携した利便性の高い公共交通ネットワークをつくる

III みんなで意識して、環境にやさしい公共交通利用を進める

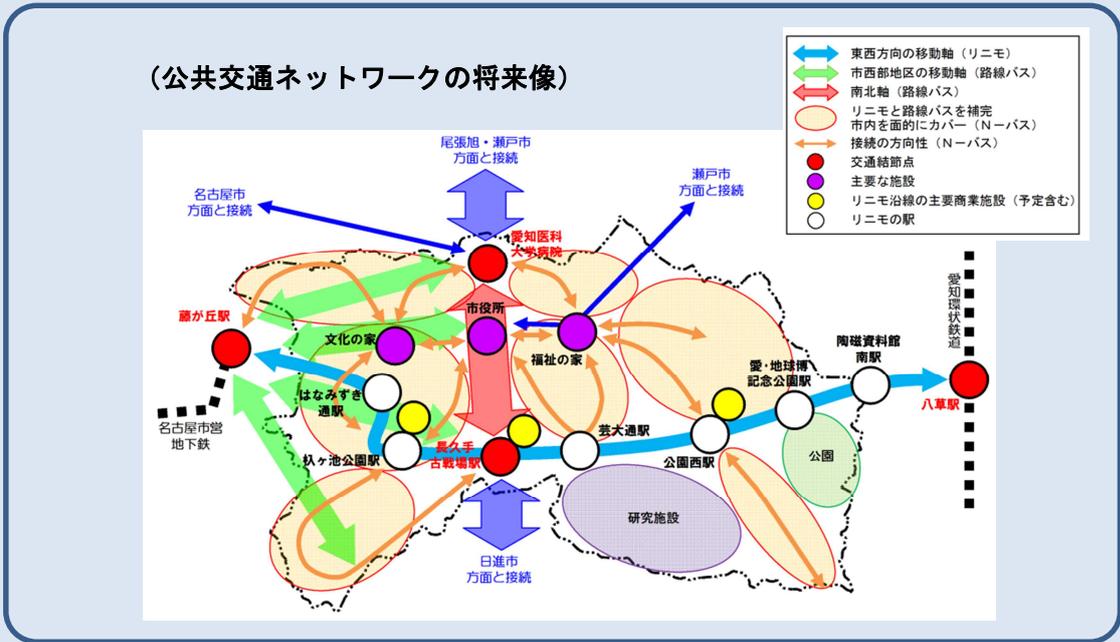
IV まちづくりと連携した公共交通体系をつくる

V 市民とともに、公共交通の利用促進に取り組む

5) 目標及び評価指標

目指すまちの姿	基本方針	目標	評価指標	現 状
① みんなで育む公共交通のまち	I II IV V	a)公共交通の利用者数の増加	対前年度比増加	リニモ：8,077 人/日平均(H26 年度) 名鉄バス：2,968 人/日 (H26 年度) N-バス：645 人/日平均(H26 年度)
		b)協働での取組みの市民参加意識の向上	「利用促進活動への市民参加の賛同割合」の調査段階ごとの増加 「利用促進活動の認知度」の調査段階ごとの増加	65 歳未満：65.8% 65 歳以上：48.6% 全 体：60.4% ・かわら版の発行：7% ・市HPでの連携計画の公開：10% ・新聞折り込みで見直し記事掲載：16%
②人にやさしい公共交通のまち	I II IV	c)公共交通に対する市民意識の向上	「公共交通利用を第一に考える」割合の調査段階ごとの増加	65 歳未満：12.6% 65 歳以上：28.2% 全 体：16.9%
③環境にやさしい公共交通のまち	III	d)公共交通の利用回数の増加	市民の利用回数の回答が「減った」より「増えた」の割合の調査段階ごとの増加	リニモ：「増えた 30.8%」「減った 21.1%」 名鉄バス：「増えた 20.7%」「減った 15.7%」 N-バス：「増えた 23.8%」「減った 13.6%」

1. 協議会が目指す地域公共交通の姿



2. 計画の達成状況の評価に関する事項

(1) 各事業の評価

各年ごとでは、主に取り組む事業の内容について、法定協議会を通じて審議を行い、実施内容の評価・改善を行う。その上で、事業を実施する。

また、公共交通の利用者数については、交通事業者からの実績報告を基本として経年変化を把握、注視するとともに、変化の状況によっては、公共交通の利用実態に関する調査を行い、取り組む事業の内容の評価・改善に反映する。

(2) 計画目標の評価

形成計画の目標の達成度合いを把握するため、公共交通利用実態調査及び市民に対するアンケート調査を行う。実施の時期は、平成28年4月から実施したNーバスの路線見直しに伴う利用者の定着と、平成31年度以降の新たな計画への反映を考慮して、計画期間の中間年（平成29年度）に行う。

1頁に示す目標及び評価指標と、公共交通利用実態調査やアンケート調査を活かして、平成30年度に計画目標の評価と各事業の評価を行い、取組み事業の具体的な改善を実施し、平成31年度以降の次期形成計画の策定に反映する。

	形成計画の評価	
	各事業の評価	計画目標の評価
評価項目	<ul style="list-style-type: none"> 形成計画で取り組む事業の内容 公共交通利用者数の経年変化 	<ul style="list-style-type: none"> 4つの目標の達成度合いの評価 各取組み事業の認知度、効果、満足度の評価、改善要望の把握
改善の対象	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通のサービス水準全般 周知、広報活動全般 市民参加の取組み 	<ul style="list-style-type: none"> 形成計画の取組み事業

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

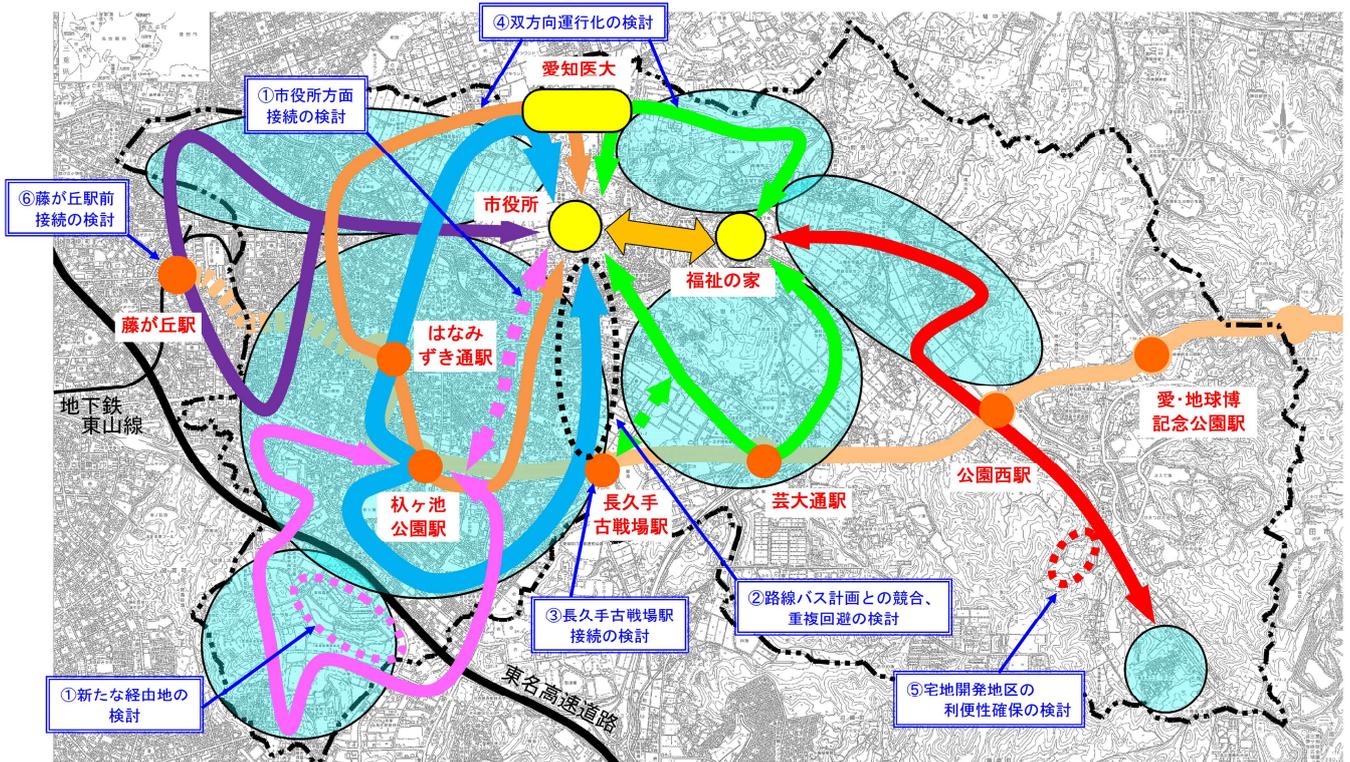
(1) 取組み経緯

①域内の公共交通の問題点と実施経緯

1) 公共交通体系について

- ・地域公共交通総合連携計画の見直し当時の平成25年度に調査した「公共交通に関する市民アンケート調査」の結果から、下表の課題が抽出された。
- ・その課題に対し、Nーバスの路線見直しに向けて検討方針を掲げ、平成26年度から検討を行ってきた。

課題		検討方針
運行本数が少ないことへの不満	→	④西部線、東部線の双方向運行化の検討
移動ニーズに対する対応	↔	①南部線の市役所方面への接続の検討
乗換えの不便さに対する不満		⑥藤が丘線の藤が丘駅前接続の検討
利用実態に応じたサービス水準の確保 市の財政負担を踏まえたサービス展開	→	○バス勢圏は、概ね市内全域をカバーしている ので、路線全体の利便性を考慮し検討
愛知医大～市役所～長久手古戦場駅間 で新設予定の民間バス路線との連携	→	②中央循環線と新たな路線バス計画との連携に向 けた運行ルートの調整及び検討
面整備計画との連携	↔	③東部線の長久手古戦場駅接続の検討
		⑤三ヶ峯線の宅地開発地区の利便性確保の検討
		①南部線の南部地区内の運行ルートの検討
隣接市コミュニティバスとの接続	→	○愛知医大及び長久手古戦場駅での隣接市コミュ ニティバスとの乗継を考慮した運行ダイヤ調整



Nーバス見直しの検討方針

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

2) 高齢化への備えについて

- ・本市は、高齢化率や平均年齢などの面で、県内では最も若い都市となっており、社会全体としては少子高齢化のすう勢にある中で、現在も人口の増加が続いている。
- ・しかしながら、本市も他の自治体に比べて高齢化は遅れてやってくるため、今の時点から高齢化に備えることが必要との考えに立ち、地域公共交通網形成計画に基づく検討課題の1つである「高齢者など交通弱者への公共交通の利用促進」に関する施策の展開について検討を行った。

3) 市民参加型の利用促進活動の展開について

- ・平成25年度実施の「公共交通に関する市民アンケート調査」では、公共交通の利用促進に関する市民参加意識で、「協働の取組に賛成」と考える割合が約6割を占めることが分かったが、当時は市民参加の体制が整っていなかった。
- ・そこで、平成27年度に市民主体の活動の場となる「公共交通応援隊」を立ち上げた。

4) 周知・広報活動について

- ・平成25年度実施の「公共交通に関する市民アンケート調査」では、利用促進活動に関する満足度は、平成22年度実施時点と比べて高くなっているものの、各種利用促進活動の認知度に差があることがわかった。
- ・そこで、利用促進活動は継続して取組むことが必要との認識から、市民主体で作成する市内公共交通に関する情報紙「のりゃあせ」の発行と、公共交通利用促進ワークショップを開催することとした。

②調査の主な内容

- a) 公共交通体系については、Nーバスの路線見直しについて具体的計画の検討を行った。
- b) 高齢化への備えについては、本市の独自組織として「公共交通ネットワーク調査研究会」を設立し、平成27年10月以降4回の協議を重ねた。
- c) 市民参加型の利用促進活動は、「公共交通応援隊」の「キッズイベントグループ」が、平成27年度に1回(3/21)、平成28年度に2回(8/26、11/23)のイベントを実施した。また、「公共交通応援隊」の「新しい乗合い交通検討会」が提言書をまとめ、前述の「公共交通ネットワーク調査研究会」において説明がなされた。
- d) 周知・広報活動は、「のりゃあせ」は年2回の発行を計画し、公共交通利用促進ワークショップは平成29年3月の開催を目指して準備を進めた。

③協議会の開催状況

- ・年3回開催し、Nーバスの路線見直しについての議論や、「公共交通ネットワーク調査研究会」、「公共交通応援隊」、「公共交通情報紙：のりゃあせ発行」の活動報告や意見把握を行った。

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

④調査結果の概要

1) Nーバス路線見直しの検討方針に対する対応の結果

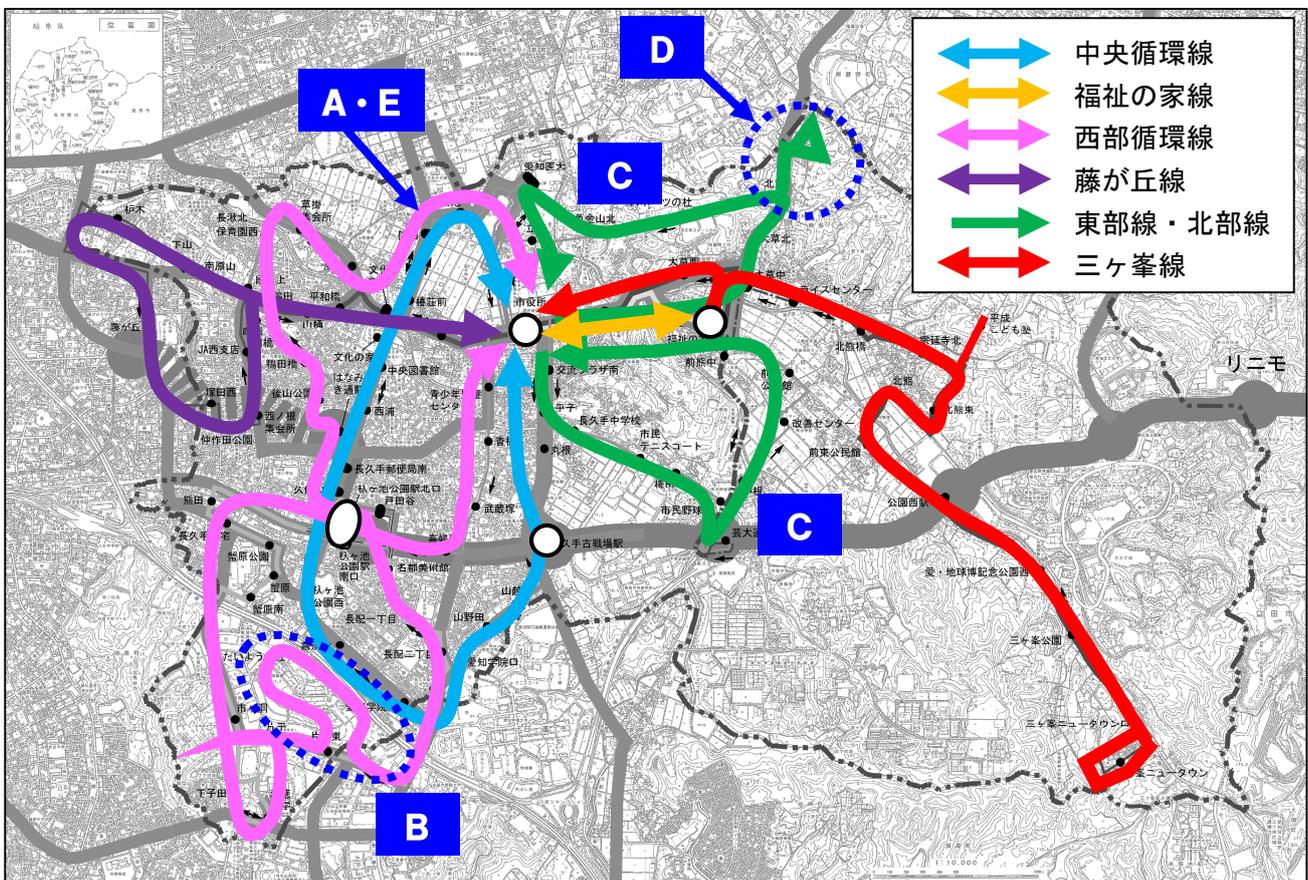
- ・課題と検討方針を踏まえて、Nーバスの見直し案を以下のとおりまとめ、平成28年4月から見直し路線での運行を始めた。

検討方針		路線見直しの内容
①南部線の市役所方面への接続の検討 及び南部地区内の運行ルート		A. 南部線と西部線を統合して西部循環線とし、南部地区から市役所方面に乗換えなしで行けるようにした。 B. 南部地区では、新たに卯塚墓園を通るルートを新設した。
②中央循環線と新たな路線バス計画との連携に向けた運行ルートの調整及び検討		○ 路線バス計画との重複を避けるための経路変更は所要時間が増加し、サービス水準の低下を招く懸念から、現行通りの経路で運行するものとした。
③東部線の長久手古戦場駅接続の検討		○ 長久手古戦場駅前に立地するイオンモール長久手は検討当初は開店前であったため、開店後の状況を踏まえて対応することとし、今回の見直しで長久手古戦場駅への乗入れはしないものとした。
④	東部線の双方向運行化の検討	 C. 東部線を北側（北部線）と南側（東部線）の2ルートに分割し、市役所を起終点とした。 D. 東部線と北部線は、利用者数の少なさと狭隘街区（北部線：北浦地区）への乗入れを考慮し、8人乗りワンボックス車両を新たに導入した。
	西部線の双方向運行化の検討	 E. 西部循環線として、当時の西部線区間の双方向運行化を図った。
⑤三ヶ峯線の宅地開発地区の利便性確保の検討		○ 民間開発地区内への乗入れでは10分の時間増加となり、車両運用の調整が難しくなることと、公園西駅周辺で新たな民間開発も計画されていることから、各事業の進捗を見据えることとし、今回の見直しでは乗入れはしないものとした。
⑥藤が丘線の藤が丘駅前接続の検討		○ 藤が丘駅前の道路混雑により、定時性に影響しやすいことと、藤が丘駅前の名鉄バス藤が丘バス停と共有できるような運行ダイヤ上の余裕が小さいことから、藤が丘駅前への乗入れはしないものとした。

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

【その他の見直し事項の総括】

- ・ 東部線、北部線へのワンボックス車両の導入によって保有車両数を5台から6台に増車し、1日の総運行本数は82本から88本、1日の総走行距離は692.5kmから770.2kmへとサービス水準の向上を図った。
- ・ 利用者が少ない三ヶ峯線の早朝便は廃止し、昼間便を1便増便した。
- ・ 福祉の家の利用ニーズに対応するため、市役所～福祉の家間は福祉の家線のほか、三ヶ峯線、東部線、北部線の3路線でも利用できるように、市役所バス停での接続を改善した。
- ・ 市役所バス停は、全ての路線が接続するため、市役所バス停の発車時刻を路線ごとで揃えてわかりやすくした。



※図中のアルファベット記号は、前頁の「路線見直しの内容」のアルファベット記号と整合している。

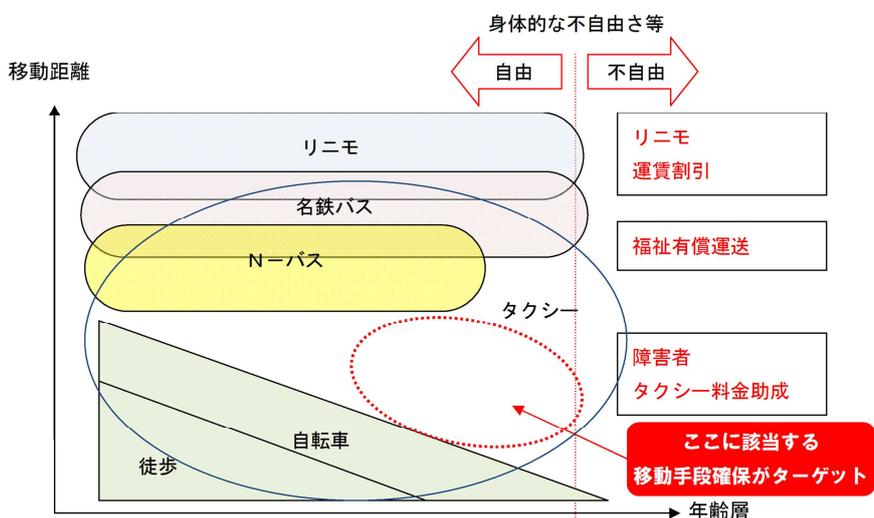
Nバスの見直しイメージ

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

2) 高齢化への備え「公共交通ネットワーク調査研究会」の取組み

- ・平成27年10月以降の4回に渡って、以下のテーマと内容で協議を重ねた。
- ・本研究会でのターゲットの定義を、「市内公共交通の駅勢圏またはバス勢圏内に居住しているが、高齢等を要因とした移動の制約で、駅またはバス停まで歩くことが困難あるいは抵抗があるものの、身体障がい者、要支援・要介護認定者でないために、福祉有償運送などの仕組みを活用することができず、外出に制約のある方」とした。
- ・バス停までの徒歩移動は厳しく、タクシーを使うほどの離れていない買い物等の目的地への移動に困っている高齢者の存在が見えてきた。
- ・本研究会では、下図の範囲に該当するような方の移動支援のあり方をまとめ、今後の具体化に向けた参考とする。

庁内会議開催日	テーマと主な内容
第1回 (平成27年10月)	検討テーマと現状の共通認識 ① 将来人口と人口分布 ② 高齢者の移動ニーズの概要と移動制約者の状況 ③ 市内の交通（Nーバス、福祉有償運送） ④ デマンド交通の紹介 ⑤ 今後の検討課題
第2回 (平成28年3月)	新たな交通システムの導入可能性の確認 ① 高齢者など交通弱者の移動ニーズの把握 ② 先進事例の整理 ③ 少量輸送の導入可能性と課題・問題点
第3回 (平成28年11月)	新たな交通システムの導入に向けた法令・制度の確認 ① 前回研究会までのおさらい ② 移動対象を補うための交通施策 ③ 新たな交通システムの導入可能性の検討
第4回 (平成28年12月)	ターゲット層の規模・調査方法、新たな交通システムの必要機能等の確認 ① ターゲットの再確認 ② ターゲット層の規模の想定 ③ ターゲット層を把握するための調査方法 ④ 新たな交通システムに必要な機能・仕組み
第5回 (平成29年2月予定)	検討結果のとりまとめ



3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取り組み内容

3) 市民参加型の利用促進活動「公共交通応援隊」の取り組み

A. みんなで育む公共交通交流会の開催

- 公共交通応援隊キッズイベントグループが中心となり、「乗って 遊んで 夢を描く バスにらくがき!? リニモを作る!? 運転手にもなれるかも!?!」と題して、子ども向けのイベントを、平成28年3月21日(月・振替休日)に開催した。
- 市内の各公共交通のブースの出展や催しを行い、楽しみながら、公共交通に慣れ親しんでもらう機会を創出した。
- 参加人数は約260人であった。



みんなが育む公共交通交流会
平成28年 3/21 (月・振替休日) 参加無料
乗って 遊んで 夢を描く
場所: 市役所西庁舎3階研修室
時間: 13時~15時30分
バスにらくがき!?
らくがきバス
リニモをつくる!?
ほくらのリニモに乗ろう!
運転手にもなれるかも!?
リニモ子ども制服試着 N-バス運転手体験
各種交通展示コーナーもあるよ!
共催: 公共交通応援隊キッズイベントグループ
長久手地域公共交通会議 (事務局 長久手市行政経営部経営管理課)

B. 夏休みN-バス探検ツアーの開催

- 公共交通応援隊キッズイベントグループが中心となり、「夏休みN-バス探検ツアー」と題して、子ども向けのイベントを、平成28年8月26日(金)に開催した。
- N-バスを利用しながら、小学生に本市の史跡と自然を学んでもらった。
- 参加人数は23人(うち保護者6人)であった。



公共交通応援隊企画
夏休みN-バス探検ツアー
~夏休みの思い出作りに~
~自由研究に~
開催日: 平成28年8月26日(金) ※雨天決行
■集合場所: 長久手市役所 ■集合時間: 午前8時45分
■参加対象者: 市内在住の小学生 ■参加費: 無料
※1年生・2年生の小学生は保護者の同伴が必要です。各コースとも、スタッフが同行します。
■持ち物: 水筒(多めに)、帽子・タオル・虫よけ対策用品・お弁当(歴史コースのみ)
●歴史コース(中央線・福祉の家線) ※お弁当をご持参ください。
9:00 市役所 発 IN-バス
9:06 長久手古戦場駅 着 見学
10:06 長久手古戦場駅 発
10:45 市役所 発 (福祉の家線) ●ポイント!
IN-バス
10:47 安藤寺 着 色金山歴史公園見学(昼食※各自弁当)
茶室見学(無料抹茶・茶菓子サービス付)
14:01 安藤寺 発 IN-バス
14:05 市役所 着 裏のり谷・アザケアート集
集落本「谷・裏のり谷」リニモバスプレゼント
14:30 解散
●里山コース(三ヶ峯線) ※お弁当をご持参ください。
9:00 市役所 発 IN-バス
9:14 宗延寺北 着 見学
9:30 平成こども館 着 カレー作り体験(昼食) キーホルダー作り体験 ●ポイント!
13:00 平成こども館 着
13:15 宗延寺北 発 IN-バス
14:00 市役所 着 裏のり谷・アザケアート集
リニモバスプレゼント
14:30 解散

申込方法 裏面の申込用紙にて記入の上、郵送またはFAX(0561-63-2100)でお申し込みください。お申込み多数の場合は抽選により決定させていただきますので、予めご了承ください。詳しくは裏面をご覧ください。
問合せ先 長久手市長公室経営企画課 〒480-1196 長久手市若作城内の60番地1 TEL 0561-56-0600 FAX 0561-63-2100
共催: 公共交通応援隊キッズイベントグループ / 長久手地域公共交通会議 (事務局 長久手市長公室経営企画課)

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

C. N-バストレジャーハンティング

・公共交通応援隊キッズイベントグループが中心となり、「N-バストレジャーハンティング」と題して、子ども向けのイベントを、平成28年11月23日(水・祝)に開催した。

・小学生にN-バスについて知ってもらうために、N-バスのまつわる問題を掲載したチラシを市内の小学生全員に配布し、開催日まで問題に解いて、当日に会場した際に答え合わせをし、正解数に応じて記念品をプレゼントした。

・参加人数は125人(保護者31人)であった。



4) 周知広報活動の取組み

A. 公共交通情報紙：のりやあせの発行

・第6号を平成28年3月、第7号を平成28年11月に発行した。

・掲載する記事は、募集した市民が取材した内容に基づいて作成したものであり、第6号では5名、第7号では3名の市民の協力が得られた。

・第8号を平成29年3月に発行する予定である。



参考：「のりやあせ」第7号

B. 公共交通利用促進ワークショップの開催

・市民に対して市内の公共交通の現状や取組みに関する情報提供を行う場として、公共交通に関するシンポジウム及びワークショップを開催する。

・直接市民に周知、啓発を行う機会を設け、電子媒体や紙媒体だけでは伝えきれないことを直接伝えることによって、認知度の向上を図るものである。

・開催は平成29年3月を予定し、準備を進めている。

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体

- ・長久手市地域公共交通網形成計画では、以下の11の事業を位置づけている。
- ・Nーバスの路線見直しについては、「(2)バス路線の再編」の事業に基づいて行い、平成28年4月1日より見直し路線での運行を始めた。
- ・「(3)交通結節点、乗継拠点の整備」の事業として、「長久手古戦場駅」の新たな駅前広場を平成27年12月より供用を開始した。また、「愛知医大」の交通結節点については平成29年4月の完成予定で整備が進んでいる。
- ・「(6)公共交通利用を促進する仕組みの導入」の事業として、「公共交通ネットワーク調査研究会」を立ち上げ、主として「高齢者など交通弱者への公共交通の利用促進」に関する施策の展開について検討を行った。
- ・「(7)市民参加型の利用促進活動の展開」の事業として、平成27年度から活動を開始した市民主体の「公共交通応援隊」の活動を支援した。
- ・「(9)周知・広報活動の強化」「(10)公共交通利用促進イベントの実施・市民参加」の事業として、市民主体で作成する市内公共交通に関する情報紙「のりゃあせ」の発行を年2回（H28.11、H29.03 予定）行うとともに、公共交通利用促進ワークショップの開催を平成29年3月に実施する。

種別	主要施策と計画事業	実施主体	実施時期の目安				
			第2次連携計画		形成計画		
			H26	H27	H28	H29	H30
バス路線の確保・維持・改善	(1) バス路線の確保・維持	市民 バス事業者 長久手市	→		→		
	(2) バス路線の再編	市民 バス事業者 長久手市	→		→		
交通結節点整備	(3) 交通結節点、乗継拠点の整備	長久手市 商業事業者 ^{※3} 愛知医科大学 交通事業者	→		→		
	(4) バス停の待合環境整備	長久手市 バス事業者 市民	→		→		
利用促進方策	(5) 公共交通の運賃体系のあり方の検討	交通事業者 長久手市 市民	→		→		
	(6) 公共交通利用を促進する仕組みの導入	交通事業者 商業事業者等 長久手市	→		→		
	(7) 市民参加型の利用促進活動の展開	市民 長久手市 交通事業者	→		→		
	(8) 公共交通マップの作成・更新	市民 長久手市 交通事業者	→		→		
	(9) 周知・広報活動の強化	市民 長久手市 交通事業者	→		→		
	(10) 公共交通利用促進イベントの実施・市民参加	市民 交通事業者 愛知県 長久手市	→		→		
調査	(11) 公共交通利用実態調査	市民 長久手市 交通事業者	→			→	

4. 具体的取組みに対する評価

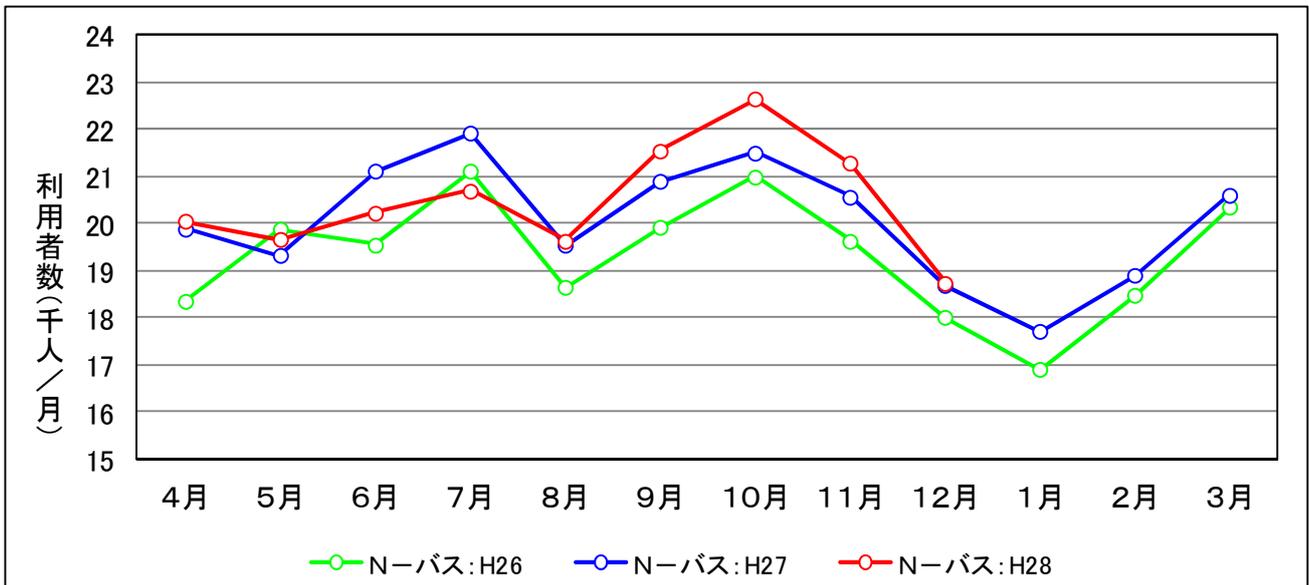
(1) 数値目標に対する達成状況

- ・地域公共交通網形成計画の4つの目標のうち、公共交通機関の運行実績で評価ができる「公共交通の利用者数」について評価を実施し、リニモ、Nーバスは目標を達成しているが、名鉄バスは目標を達成できなかった。

目 標		平成 26 年度実績 (基準年)	評価指標	平成 27 年度実績	達成状況	
目標 1	公共交通の 利用者数	リニモ	8,077 人/日平均	対前年度比増加	8,593 人/日平均	達成
		名鉄バス	2,968 人/日	対前年度比増加	2,877 人/日	未達成
		Nーバス	645 人/日平均	対前年度比増加	669 人/日平均	達成

①Nーバスの路線見直し後の利用者数の推移

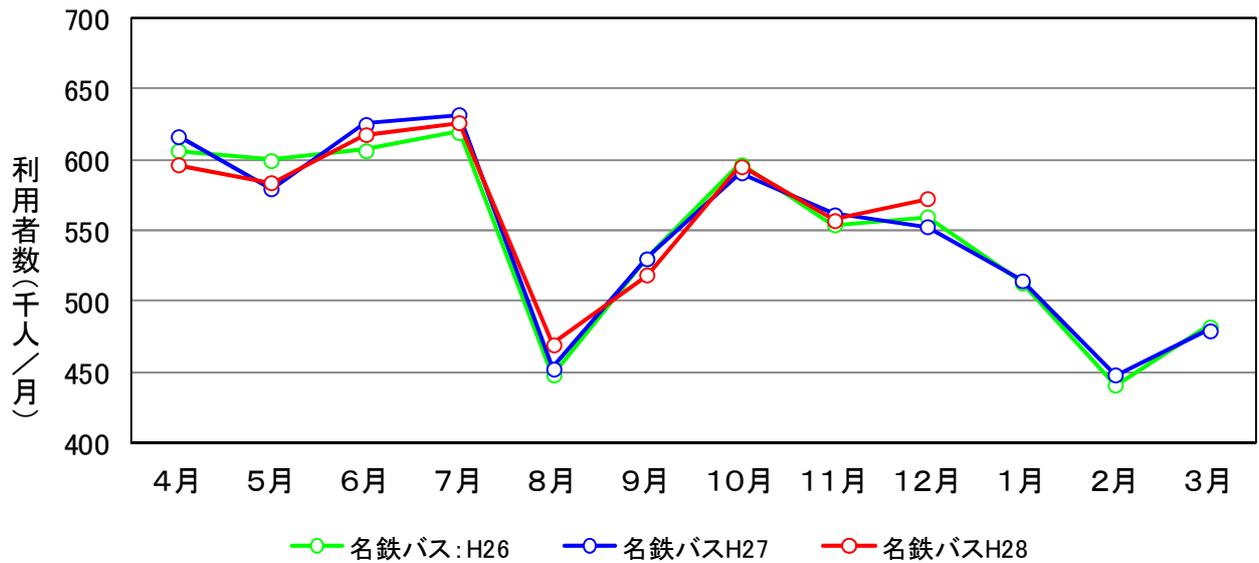
- ・Nーバスは平成28年4月から見直し路線で運行を始め、再編直後には大きな乗客数の減少は見られなかったが、8月以降は着実に増加をしている。平成27年4～12月と平成28年4～12月の合計利用者数を比較すると、平成28年が1,093人上回っている。
- ・平成28年12月9日に長久手古戦場駅前にてオープンしたイオンモール長久手を訪れる自動車交通の渋滞により、定時性が損なわれる例が生じている。



4. 具体的取組みに対する評価

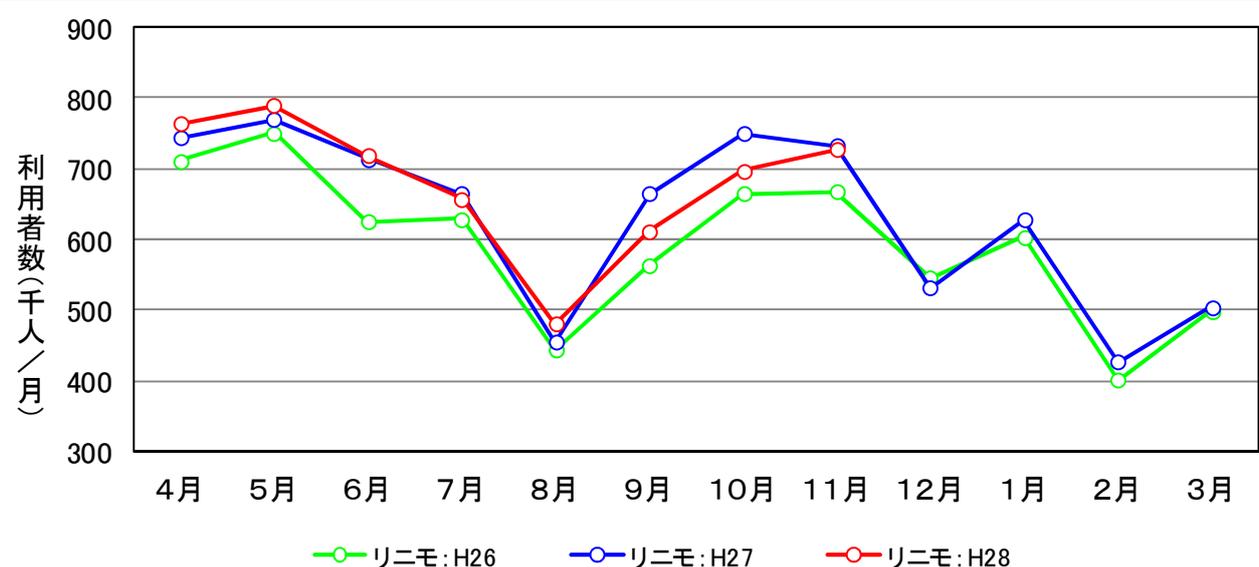
②名鉄バスの利用者数の推移

- ・名鉄バスの利用者数は、長久手市内を運行する路線全体の利用者データとなり、市内外の利用者が含まれたデータとなるが、平成27年4～12月と平成28年4～12月の合計利用者数を比較すると、平成28年が2.7千人下回っている。
- ・平成28年12月9日に長久手古戦場駅前にてオープンしたイオンモール長久手を訪れる自動車交通の渋滞により、Nバスと同様に定時性が損なわれる例が生じている。



③リニモの利用者数の推移

- ・平成27年の9/12～11/8に愛・地球博記念公園で緑化フェアが開催されたため、平成28年の9・10月の利用者数は平成27年に比べて下回っているが、緑化フェアの期間を除いた平成27年4～8月と平成28年4～8月の合計利用者数を比較すると、平成28年が62千人上回っている。



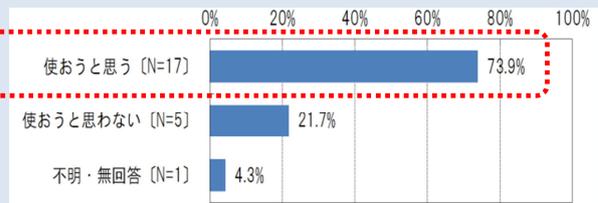
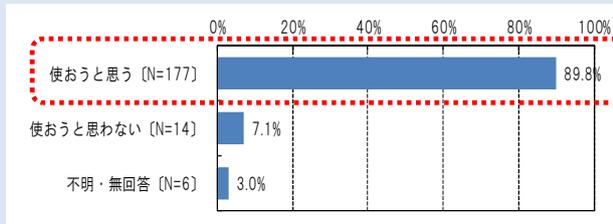
4. 具体的取組みに対する評価

(2) 高齢化への備え「公共交通ネットワーク調査研究会」の取組み

- ・「公共交通ネットワーク調査研究会」は、政策・企画・交通（Nーバス）・福祉関係の7つの庁内関係部局が横断的に意見交換を交わし、現状の交通システムでは移動を支援し切れず、買い物等の目的地への移動に困っている高齢者の存在が見えてきたことと、その状況を関係部局で共有でき、効果的な取組みであった。
- ・また、第3回の開催の際には「新しい乗合い交通」について提言書を作成した市民の方や、愛知運輸支局の担当者も出席して頂き、提言書の考えや法的な理解を深めることができた。

(3) 市民参加型の利用促進活動「公共交通応援隊」の取組み

- ・「みんなで育む公共交通交流会(H28-3-21 開催): 下左図」と「夏休みNーバス探検ツアー(H28-8-26 開催) : 下右図」で実施したアンケートでは、「今後、公共交通を使おうと思う」の回答割合が多く、将来の公共交通の利用促進に寄与したものと考えられる。



- ・「Nーバストレジャーハンティング」は取組みが右記の新聞記事にも取り上げられるなど、市民参加型の利用促進活動が浸透しつつあると考えられる。

(4) 周知広報活動の取組み

- ・「公共交通情報紙：のりやあせ」は、記事の作成を募集すると、毎回市民からの応募が数名あり、市民主体の取組を行うことができた。
- ・公共交通利用促進ワークショップは、堅苦しくならないように、趣向を凝らして親子で参加できるように検討中であり、若年層への利用促進が期待できる。



5. 自己評価から得られた課題と対応方針

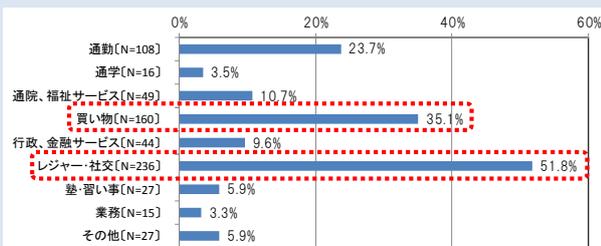
- ・前項で整理した評価を元に、課題と対応方針を3つにまとめた。

(1) 公共交通の定時運行の確保

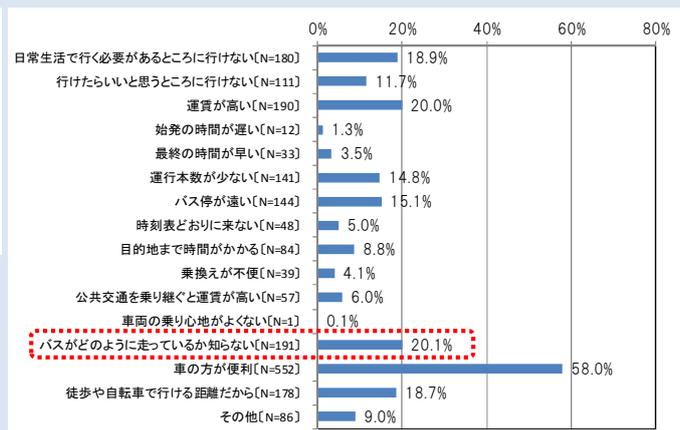
- ・長久手古戦場駅前にオープンしたイオンモール長久手の来訪者によって生じる自動車交通渋滞が予想以上に発生し、多い時には2時間以上の遅延が発生し、Nーバスでは車両運用上の関係から運行を一部取り止める事態も生じた。
- ・交通状況と運行状況を注視しながら、交通事業者、商業事業者、公安と連携を図り、適切な交通誘導の要請や、交通系ICカードを使って来店した際のポイント付与の仕組み周知等も含めた公共交通での来店促進などに取り組んでいく。

(2) 公共交通全般の利用促進と利用促進活動の継続

- ・Nーバスとリニモの利用者数は増加傾向にあるものの、名鉄バスについては前年度比で減少の結果となった。
- ・平成25年度に実施した「公共交通に関する市民アンケート調査」では、下図のとおり通勤目的以上に、買い物やレジャー・社交目的での利用が多い一方、利用していない理由では「バスがどのように走っているか知らない」という割合が比較的高い状況にもある。
- ・平成28年3月21日に開催した「みんなで育む公共交通交流会」等の公共交通イベントでは、Nーバスだけでなく、リニモ、名鉄バス、タクシーの公共交通全般を取り上げるようにしているところであるが、引き続き交通モードの取り上げ方が偏らないように取り組んでいく。
- ・市民が主体となった「公共交通応援隊」の活動が、軌道に乗りつつあることから、引き続き活動が継続するように、適切な支援を行っていく。



名鉄バスの利用目的の回答割合

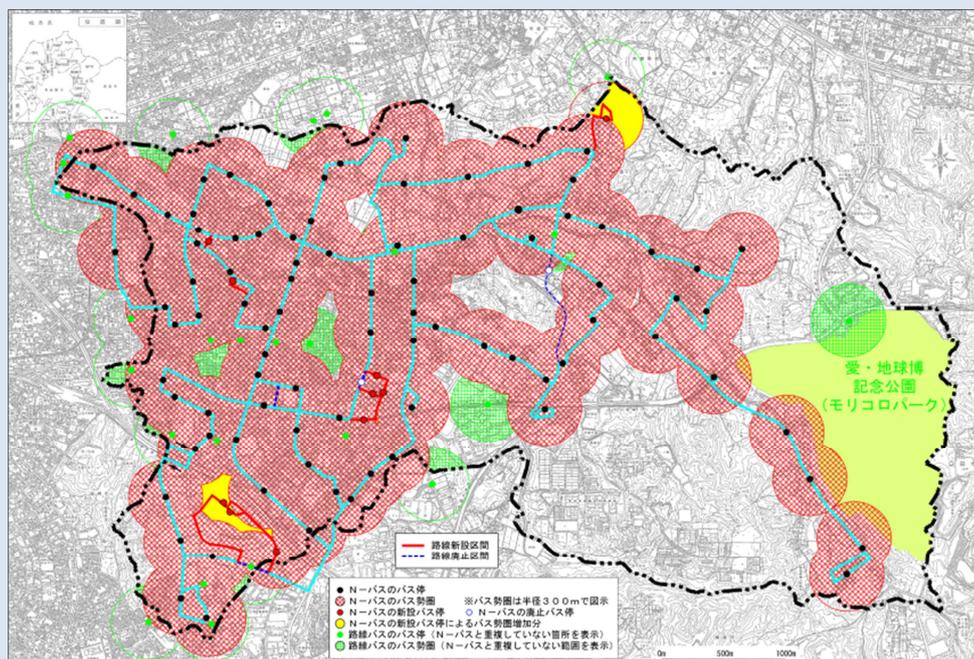


名鉄バスを利用していない理由の回答割合

5. 自己評価から得られた課題と対応方針

(3) 高齢者を中心とした交通弱者の移動支援策

- ・ Nーバスと名鉄バスのバス勢圏を300mとした場合、下図のように市域の約6割をカバーしており、可住地ベースではその多くがバス勢圏内に含まれる。
- ・ しかしながら、「公共交通ネットワーク調査研究会」を通じた意見交換では、高齢による身体的な理由から、300mは歩けないが行きたい先はタクシーを使うほどの距離ではないといった「買い物難民」に相当する市民がいることが分かってきた。
- ・ このような方は一般の公共交通も福祉有償運送も利用できず、外出が不自由な状況にある。
- ・ しかし、その実数やニーズは把握できていない状況にあるため、既存の仕組みを活用して移動支援の要否を把握するなど、移動支援に向けた調査・検討を継続する。



市内のバス勢圏

長久手市地域公共交通会議

平成20年11月25日設置

1. 直近の第三者評価の活用・対応状況

直近の第三者評価委員会における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
<p>市内公共交通の利用促進に向け、市民参加型の各種協働事業に取組み、各交通モードの利用者が増加傾向にあることの評価を引き続き、市民との協働事業の推進と、4月予定のNーバスの見直しによる更なる利便性向上を期待</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Nーバスの路線見直しを行い、平成28年4月より見直し路線で運行を開始した。 ・市民との協働事業として公共交通情報紙「のりやあせ」の発行、公共交通応援隊による公共交通利用促進イベント、親子参加の公共交通利用促進ワークショップを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年12月に長久手古戦場駅前にオープンした大型商業施設を訪れる自動車交通の増加により、公共交通（名鉄バス、Nーバス）の定時性が損なわれる例が生じていることから、道路交通状況と運行状況を注視する必要がある。 ・市民との協働事業は、引き続き活動を支援し、取組みを継続していく。
<p>今後予定される大型商業施設や宅地開発による需要動向への対応の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Nーバスの路線見直しでは、長久手古戦場駅前に整備された駅前広場や大型商業施設の立地を考慮した。 ・公園西駅前で進行する大型販売店の立地や土地区画整理事業の進捗を見据えて対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園西駅前の大型販売店は平成29年秋頃にオープンが予定されているため、事前に情報収集を行い、今後の対応等について交通事業者と連携を図っていく。

2. アピールポイント

(1) 「公共交通応援隊」を中心としたイベントの開催

- ・平成27年度に「公共交通応援隊」が立ち上がって以降、市職員も会合に参加して、市民の発想を尊重しながら、市民主体の公共交通の利用促進活動を支援してきた。
- ・その結果、「みんなで育む公共交通交流会(H28-3-21開催)」、「夏休みNーバス探検ツアー(H28-8-26開催)」、「Nーバストレジャーハンティング(H28-11-23開催)」の計3回のイベントを開催することができ、3回合計で約400名の市民参加があった。
- ・今後も活動を支援し、取組みを継続していく。

(2) 地域公共交通会議における本市の公共交通に関する意見交換の実施

- ・これまで、地域公共交通会議の進行は議題に沿って行い、本会議の委員メンバーの自由な発言の場は限られていたが、本市の公共交通についての問題点等を共有し、公共交通の改善に活かすため、愛知運輸支局指導のもと、今年度の地域公共交通会議から本会議の委員メンバーによる公共交通に関する意見交換の場を議題に挙げ、自由発言を促す取組みを行った。
- ・異なる事業者間のバス利用経路のインターネット検索ができない問題や、ベビーカーでのバス乗車時のルールや交通事業者の対応など様々な意見が出され、問題点を共有できた。
- ・今後も取組みを継続し、必要に応じ改善にもつなげる。